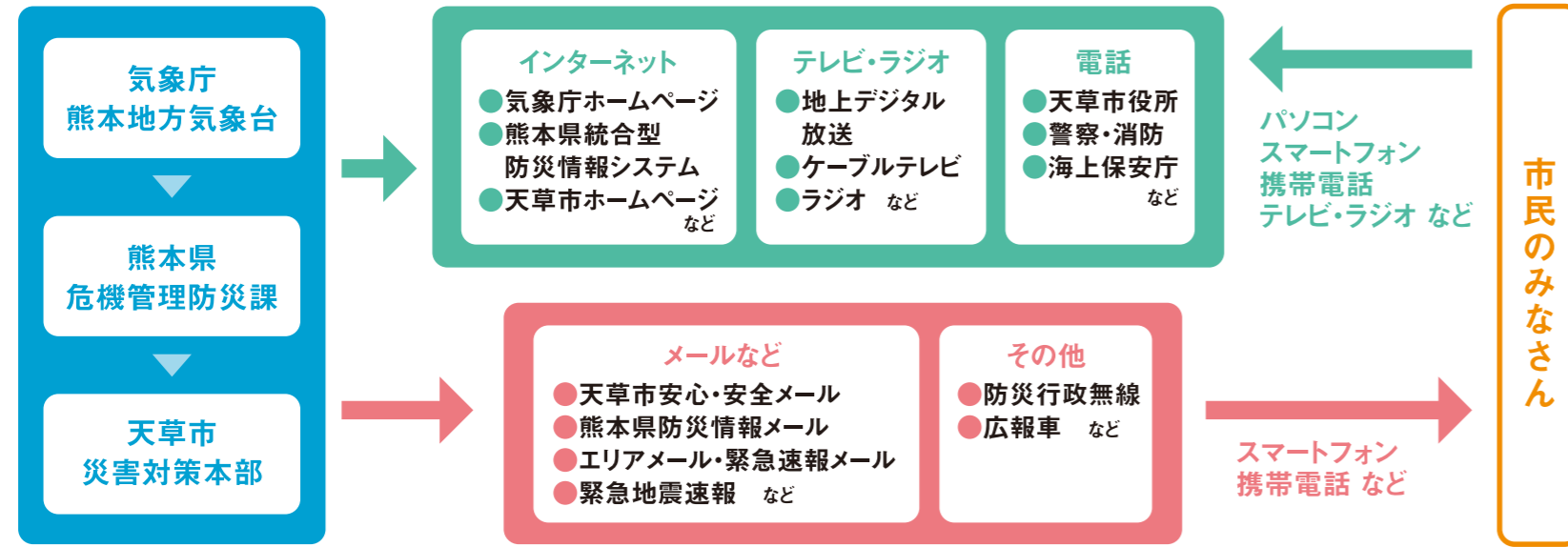


自ら判断し、早めに避難しましょう!

いざというときは



情報伝達の経路

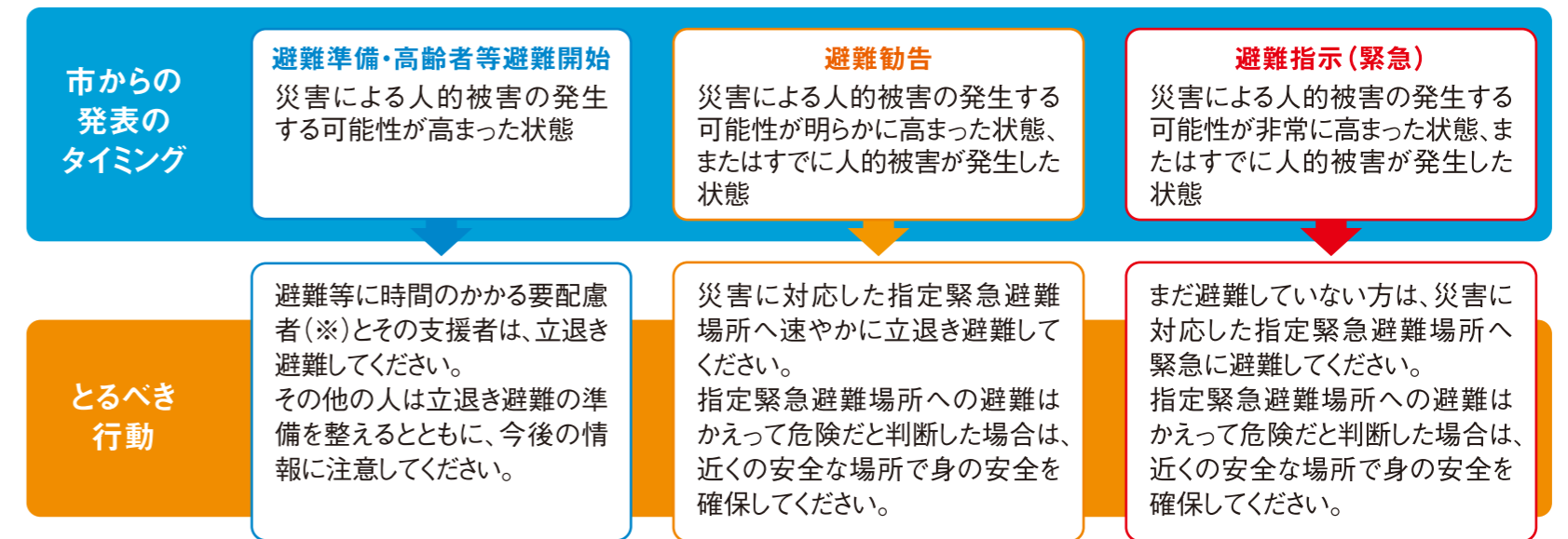


災害の種類と防災情報・行動のポイント

| 災害の種類 | 洪水(大雨) | 土砂災害 | 高潮(台風) | 地震 | 津波 |
|---------|---|--|---|---|--|
| 防災・気象情報 | 気象予報 水位観測情報 記録的短時間大雨情報 | 雨量観測情報 土砂災害警戒情報 | 潮位情報 | 緊急地震速報 | |
| 警報・注意報 | 大雨注意報、洪水注意報など 大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報など 大雨特別警報(土砂災害、浸水害)、高潮特別警報など | | 高潮注意報など 高潮警報など | 震度5弱以上 震度6弱以上 | 津波注意報 津波警報 大津波警報 |
| 避難情報 | 避難準備・高齢者等避難開始 | | | | |
| | 避難勧告 | | | | |
| | 避難指示(緊急) | | | | |
| 行動のポイント | ● 気象情報に注意し、早めに避難する。 ● 川に近づいたり、田んぼの見回りには行かない。 | ● 前兆現象(がけから小石がバラバラ落ちてくる、山鳴りがするなど)や身の危険を感じたら速やかに避難する。 | ● 台風の進路を確認し、家の中・外の安全対策を行う。 ● 海沿いにお住まいの方は、潮位情報に注意し、早めに避難する。 | ● まずは身の安全を確保する。 ● 揺れが収まったら、ガラスの破片などに注意し、火元の確認、初期消火を行う。 | ● 海沿いにいた場合は、速やかに高台へ避難する。 ● 注意報・警報が解除されるまで、海沿いには近づかない。 |

避難情報と住民がとるべき行動

災害が発生する可能性が高まり、住民の皆さんの避難が必要になった場合に、市は避難に関する情報を発令します。市民の皆さんは情報を確認し、適切な行動をとってください。



(※)要配慮者とは、高齢者、子ども、障がいのある方、その他の特に配慮を要する方を言います。

屋内安全確保(垂直避難)

● 予想される浸水が2階の床面(3m)未満の場合



● 屋外への避難ができて危険な場合



立退き避難(水平避難)

● 2階の床面(3m)以上の浸水が予想される場合
● 土砂災害による家屋倒壊などのおそれがある場合



夜間に大雨が予想される場合は、明るい時間帯での予防的避難を心がけてください。

避難する場合...

- 避難する前に
電気のブレーカーを落とし、ガスなどの火元を閉め、親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。
- 一人暮らしのお年寄りなどには気配りを
近所の一人暮らしのお年寄りや病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。
- 車での避難は控えて
車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。
- 浸水した道路を通る場合
水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。
- 速やかに避難しましょう
避難に関する情報が発表されたら、速やかに避難しましょう。避難の際には消防団員などの指示に従いましょう。

災害時に特別な配慮を要する方々への支援

高齢者や障がいをお持ちの方など、災害時において特に配慮を要する方々は、災害発生時において地域の皆さんの支援が必要となります。

- 高齢者・病人
・おんぶ(または担架、リアカーなど)を利用して安全な場所まで避難する。
・複数の介助者で対応する。
- 目の不自由な方
・声をかけ、情報を伝える。
・誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩手前をゆっくり歩く。
- 車いすを利用している方
・階段では2人以上が必要。
・上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
・介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。
- 耳の不自由な方
・話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
・手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。